

1

解答解説のページへ

$n$  を 3 以上の自然数とする。1 個のさいころを  $n$  回投げて、出た目の数の積をとる。積が 60 となる確率を  $p_n$  とする。以下の問いに答えよ。

- (1)  $p_3$  を求めよ。
- (2)  $n \geq 4$  のとき、 $p_n$  を求めよ。
- (3)  $n \geq 4$  とする。出た目の数の積が  $n$  回目にはじめて 60 となる確率を求めよ。

2

解答解説のページへ

原点を  $O$  とする座標平面上に 3 点  $A, B, C$  がある。 $\overrightarrow{OA} = \vec{u}$ ,  $\overrightarrow{AB} = \vec{v}$ ,  $\overrightarrow{BC} = \vec{w}$  とおく。 $\vec{e}_1 = (1, 0)$ ,  $\vec{e}_2 = (0, 1)$  とするとき 3 つのベクトル  $\vec{u}$ ,  $\vec{v}$ ,  $\vec{w}$  は

$$\begin{cases} \vec{u} = -\vec{e}_1 \\ \vec{v} \cdot \vec{e}_1 = 4, \quad |\vec{v}| = 2\sqrt{5}, \quad \vec{v} \cdot \vec{e}_2 < 0 \\ \vec{w} \cdot \vec{e}_1 = 8, \quad |\vec{w}| = 8\sqrt{2}, \quad \vec{w} \cdot \vec{e}_2 > 0 \end{cases}$$

を満たすとする。ただし、 $|\vec{x}|$  はベクトル  $\vec{x}$  の大きさを表し、 $\vec{x} \cdot \vec{y}$  は 2 つのベクトル  $\vec{x}$  と  $\vec{y}$  の内積を表す。以下の問いに答えよ。

- (1) 3 点  $A, B, C$  の座標をそれぞれ求めよ。
- (2) 3 点  $A, B, C$  を通る円の方程式を求めよ。
- (3) 3 点  $A, B, C$  を通る円の中心を  $P$  とするとき、 $\triangle ABC$  の面積と  $\triangle ABP$  の面積の比を求めよ。

3

解答解説のページへ

$xy$  平面上に点  $P(\cos\theta, \sin\theta)$  をとり、 $\theta$  が  $-\frac{\pi}{2} \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$  の範囲を動くとする。点  $A$  は  $y$  軸上の点で、 $y$  座標が負であり、 $AP = 2$  を満たす。点  $Q$  は  $\overrightarrow{AQ} = 4\overrightarrow{AP}$  を満たす点とする。以下の問いに答えよ。

- (1) 点  $Q$  の座標を  $\theta$  を用いて表せ。
- (2) 点  $Q$  の  $x$  座標の最大値と最小値および  $y$  座標の最大値と最小値をそれぞれ求めよ。
- (3) 点  $Q$  の軌跡と  $y$  軸で囲まれた図形の面積を求めよ。

4

解答解説のページへ

平面上の 2 つの円が直交するとは、2 つの円が 2 点で交わり、各交点において 2 つの円の接線が互いに直交することである。以下の問いに答えよ。

- (1)  $C_1, C_2$  は半径がそれぞれ  $r_1, r_2$  の円とする。 $C_1$  の中心と  $C_2$  の中心の間の距離を  $d$  とする。 $C_1$  と  $C_2$  が直交するための必要十分条件を  $d, r_1, r_2$  の関係式で表せ。
- (2)  $p, r_1, r_2$  は  $p > r_1 + r_2, r_1 > 0, r_2 > 0$  を満たす実数とする。座標平面上において、原点  $O$  を中心とする半径  $r_1$  の円を  $C_1$ 、点  $(p, 0)$  を中心とする半径  $r_2$  の円を  $C_2$  とする。 $C_1$  と  $C_2$  のいずれにも直交する円の中心の軌跡を求めよ。
- (3) 互いに外部にある 3 つの円の中心が一直線上にないとき、それら 3 つの円のいずれにも直交する円がただ 1 つ存在することを示せ。

1

問題のページへ

- (1) 1 個のさいころを 3 回投げて、出た目の数の積が  $60 = 2^2 \times 3 \times 5$  となるのは、出た目の数が  $\{2, 5, 6\}$ ,  $\{3, 4, 5\}$  のときであり、その確率  $p_3$  は、

$$p_3 = 3! \times \left(\frac{1}{6}\right)^3 + 3! \times \left(\frac{1}{6}\right)^3 = \frac{1}{18}$$

- (2)  $n \geq 4$  のとき、1 個のさいころを  $n$  回投げて、出た目の数の積が 60 となるのは、出た目の数について、

(i)  $\{2, 5, 6, 1, 1, \dots, 1\}$  (1 は  $n-3$  回) のとき

(ii)  $\{3, 4, 5, 1, 1, \dots, 1\}$  (1 は  $n-3$  回) のとき

(iii)  $\{2, 2, 3, 5, 1, \dots, 1\}$  (1 は  $n-4$  回) のとき

(i)~(iii) より、この確率  $p_n$  は、

$$\begin{aligned} p_n &= \frac{n!}{(n-3)!} \left(\frac{1}{6}\right)^n + \frac{n!}{(n-3)!} \left(\frac{1}{6}\right)^n + \frac{n!}{2!(n-4)!} \left(\frac{1}{6}\right)^n \\ &= \left\{ 2n(n-1)(n-2) + \frac{1}{2}n(n-1)(n-2)(n-3) \right\} \left(\frac{1}{6}\right)^n \\ &= \frac{1}{2}n(n-1)(n-2)(4+n-3) \left(\frac{1}{6}\right)^n = \frac{1}{2}(n+1)n(n-1)(n-2) \left(\frac{1}{6}\right)^n \end{aligned}$$

- (3)  $n \geq 4$  のとき、出た目の数の積が  $n$  回目にはじめて 60 となるのは、

(a)  $n$  回目が 2 のとき (2) の (i) と (iii) の場合より、このときの確率は、

$$\begin{aligned} &\frac{(n-1)!}{(n-3)!} \left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} \cdot \frac{1}{6} + \frac{(n-1)!}{(n-4)!} \left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} \cdot \frac{1}{6} \\ &= \{(n-1)(n-2) + (n-1)(n-2)(n-3)\} \left(\frac{1}{6}\right)^n = (n-1)(n-2)^2 \left(\frac{1}{6}\right)^n \end{aligned}$$

(b)  $n$  回目が 3 のとき (2) の (ii) と (iii) の場合より、このときの確率は、

$$\begin{aligned} &\frac{(n-1)!}{(n-3)!} \left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} \cdot \frac{1}{6} + \frac{(n-1)!}{2!(n-4)!} \left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} \cdot \frac{1}{6} \\ &= \left\{ (n-1)(n-2) + \frac{1}{2}(n-1)(n-2)(n-3) \right\} \left(\frac{1}{6}\right)^n = \frac{1}{2}(n-1)^2(n-2) \left(\frac{1}{6}\right)^n \end{aligned}$$

(c)  $n$  回目が 4 のとき (2) の (ii) の場合より、このときの確率は、

$$\frac{(n-1)!}{(n-3)!} \left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} \cdot \frac{1}{6} = (n-1)(n-2) \left(\frac{1}{6}\right)^n$$

(d)  $n$  回目が 5 のとき (2) の (i) と (ii) と (iii) の場合より、このときの確率は、

$$\begin{aligned} &\frac{(n-1)!}{(n-3)!} \left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} \cdot \frac{1}{6} + \frac{(n-1)!}{(n-3)!} \left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} \cdot \frac{1}{6} + \frac{(n-1)!}{2!(n-4)!} \left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} \cdot \frac{1}{6} \\ &= \left\{ 2(n-1)(n-2) + \frac{1}{2}(n-1)(n-2)(n-3) \right\} \left(\frac{1}{6}\right)^n \\ &= \frac{1}{2}(n-1)(n-2)(n+1) \left(\frac{1}{6}\right)^n \end{aligned}$$

(e)  $n$  回目が 6 のとき (2)の(i)の場合より, このときの確率は,

$$\frac{(n-1)!}{(n-3)!} \left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} \cdot \frac{1}{6} = (n-1)(n-2) \left(\frac{1}{6}\right)^n$$

(a)~(e)より, 出た目の積が  $n$  回目にはじめて 60 となる確率  $q_n$  は,

$$\begin{aligned} q_n &= (n-1)(n-2)^2 \left(\frac{1}{6}\right)^n + \frac{1}{2}(n-1)^2(n-2) \left(\frac{1}{6}\right)^n + (n-1)(n-2) \left(\frac{1}{6}\right)^n \\ &\quad + \frac{1}{2}(n-1)(n-2)(n+1) \left(\frac{1}{6}\right)^n + (n-1)(n-2) \left(\frac{1}{6}\right)^n \\ &= \frac{1}{2}(n-1)(n-2) \{2(n-2) + (n-1) + 2 + (n+1) + 2\} \left(\frac{1}{6}\right)^n \\ &= \frac{1}{2}(n-1)(n-2) \cdot 4n \left(\frac{1}{6}\right)^n = 2n(n-1)(n-2) \left(\frac{1}{6}\right)^n \end{aligned}$$

### [解説]

確率の標準的な問題です。(3)は  $n$  回目が 1 という場合は, 条件にあてはまらないという点に着目しています。

2

問題のページへ

(1)  $\vec{OA} = \vec{u} = (u_1, u_2)$ ,  $\vec{AB} = \vec{v} = (v_1, v_2)$ ,  $\vec{BC} = \vec{w} = (w_1, w_2)$  とおく。そして,  
 $\vec{e}_1 = (1, 0)$ ,  $\vec{e}_2 = (0, 1)$  のとき,  $\vec{u} = -\vec{e}_1 = (-1, 0)$  より,  $u_1 = -1$ ,  $u_2 = 0$

また,  $\vec{v} \cdot \vec{e}_1 = 4$  より  $v_1 = 4$ ,  $\vec{v} \cdot \vec{e}_2 < 0$  より  $v_2 < 0$  となり,  $|\vec{v}| = 2\sqrt{5}$  から,

$$4^2 + v_2^2 = (2\sqrt{5})^2, \quad v_2^2 = 4, \quad v_2 = -2$$

さらに,  $\vec{w} \cdot \vec{e}_1 = 8$  より  $w_1 = 8$ ,  $\vec{w} \cdot \vec{e}_2 > 0$  より  $w_2 > 0$  となり,  $|\vec{w}| = 8\sqrt{2}$  から,

$$8^2 + w_2^2 = (8\sqrt{2})^2, \quad w_2^2 = 64, \quad w_2 = 8$$

したがって,  $\vec{OA} = (-1, 0)$ ,  $\vec{AB} = (4, -2)$ ,  $\vec{BC} = (8, 8)$  となり,

$$\vec{OB} = \vec{OA} + \vec{AB} = (3, -2), \quad \vec{OC} = \vec{OB} + \vec{BC} = (11, 6)$$

これより,  $A(-1, 0)$ ,  $B(3, -2)$ ,  $C(11, 6)$  である。

(2) 線分  $AB$  の中点は  $(1, -1)$  で,  $\vec{AB} = 2(2, -1)$  から,

線分  $AB$  の垂直二等分線の方程式は,

$$2(x-1) - (y+1) = 0, \quad 2x - y - 3 = 0 \cdots \cdots \textcircled{1}$$

線分  $BC$  の中点は  $(7, 2)$  で,  $\vec{BC} = 8(1, 1)$  から, 線分

$BC$  の垂直二等分線の方程式は,

$$(x-7) + (y-2) = 0, \quad x + y - 9 = 0 \cdots \cdots \textcircled{2}$$

直線①と②の交点が 3 点  $A, B, C$  を通る円の中心  $P$  な

ので,  $3x - 12 = 0$  より  $x = 4$  となり,  $y = 9 - 4 = 5$  から  $P(4, 5)$  である。

すると,  $PA = \sqrt{(4+1)^2 + 5^2} = 5\sqrt{2}$  から, 3 点  $A, B, C$  を通る円の方程式は,

$$(x-4)^2 + (y-5)^2 = 50$$

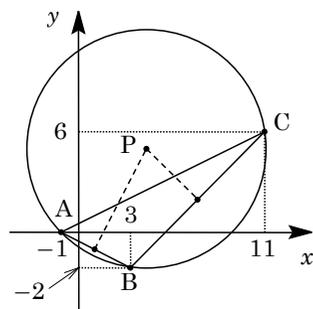
(3) 直線  $AB$  の方程式は,  $y = -\frac{1}{2}(x+1)$  より  $x + 2y + 1 = 0$  であり, このとき点  $C$ ,

点  $P$  から直線  $AB$  に下ろした垂線の長さを, それぞれ  $d_C$ ,  $d_P$  とおくと,

$$d_C = \frac{|11 + 2 \cdot 6 + 1|}{\sqrt{1^2 + 2^2}} = \frac{24}{\sqrt{5}}, \quad d_P = \frac{|4 + 2 \cdot 5 + 1|}{\sqrt{1^2 + 2^2}} = \frac{15}{\sqrt{5}}$$

すると,  $\triangle ABC$  の面積と  $\triangle ABP$  の面積の比は,

$$d_C : d_P = \frac{24}{\sqrt{5}} : \frac{15}{\sqrt{5}} = 8 : 5$$



### [解説]

一見, ベクトルで与えられた条件が複雑そうなのですが, 見た目ほどではありません。解きほぐせば, 後は基本的な計算だけです。

3

問題のページへ

(1)  $\theta$  が  $-\frac{\pi}{2} \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$  の範囲を動くとき  $P(\cos\theta, \sin\theta)$  と

$A(0, a)$  に対し,  $AP = 2$  から,

$$\cos^2\theta + (\sin\theta - a)^2 = 4, \quad 1 - 2a\sin\theta + a^2 = 4$$

すると,  $a^2 - 2a\sin\theta - 3 = 0$  となり,  $a < 0$  から,

$$a = \sin\theta - \sqrt{\sin^2\theta + 3}$$

ここで,  $\overrightarrow{AQ} = 4\overrightarrow{AP}$  から,

$$\begin{aligned} \overrightarrow{OQ} &= \overrightarrow{OA} + 4\overrightarrow{AP} = (0, a) + 4(\cos\theta, \sin\theta - a) = (4\cos\theta, 4\sin\theta - 3a) \\ &= (4\cos\theta, 4\sin\theta - 3\sin\theta + 3\sqrt{\sin^2\theta + 3}) \\ &= (4\cos\theta, \sin\theta + 3\sqrt{\sin^2\theta + 3}) \end{aligned}$$

したがって,  $Q(4\cos\theta, \sin\theta + 3\sqrt{\sin^2\theta + 3})$  である。

(2) (1)から,  $x = 4\cos\theta$ ,  $y = \sin\theta + 3\sqrt{\sin^2\theta + 3}$  とおくと,  $\frac{dx}{d\theta} = -4\sin\theta$

$$\frac{dy}{d\theta} = \cos\theta + \frac{3}{2} \cdot \frac{2\sin\theta\cos\theta}{\sqrt{\sin^2\theta + 3}} = \frac{\cos\theta}{\sqrt{\sin^2\theta + 3}} (\sqrt{\sin^2\theta + 3} + 3\sin\theta)$$

ここで,  $\sqrt{\sin^2\theta + 3} + 3\sin\theta = 0$  とすると,  $\sqrt{\sin^2\theta + 3} = -3\sin\theta$

$\sin\theta \leq 0$  のもとで,  $\sin^2\theta + 3 = 9\sin^2\theta$  となり,  $\sin\theta = -\sqrt{\frac{3}{8}} = -\frac{\sqrt{6}}{4}$

$\sin\alpha = -\frac{\sqrt{6}}{4}$  ( $-\frac{\pi}{2} < \alpha < 0$ )

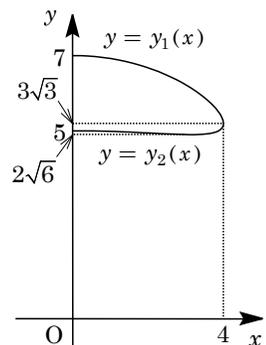
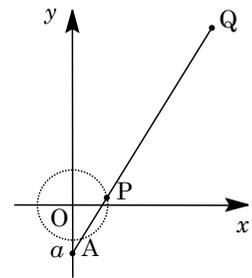
とおき,  $-\frac{\pi}{2} \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$  における  $x$ ,

$y$  の増減を調べると, 右表のようになる。これより, 点  $Q$  の  $x$  座標の最大値は 4, 最小値は 0 であり,  $y$  座標の最大値は 7, 最小値は  $2\sqrt{6}$  である。

$\theta$	$-\frac{\pi}{2}$	...	$\alpha$	...	0	...	$\frac{\pi}{2}$
$\frac{dx}{d\theta}$		+		+	0	-	
$x$	0	↗		↗	4	↘	0
$\frac{dy}{d\theta}$	0	-	0	+		+	0
$y$	5	↘	$2\sqrt{6}$	↗	$3\sqrt{3}$	↗	7

(3) 点  $Q$  の軌跡は右図の曲線のようになり,  $y \geq 3\sqrt{3}$  の部分を  $y = y_1(x)$ ,  $y \leq 3\sqrt{3}$  の部分を  $y = y_2(x)$  とおくと, この曲線と  $y$  軸で囲まれた図形の面積  $S$  は,

$$\begin{aligned} S &= \int_0^4 y_1(x) dx - \int_0^4 y_2(x) dx \\ &= \int_{\frac{\pi}{2}}^0 (\sin\theta + 3\sqrt{\sin^2\theta + 3}) \cdot (-4\sin\theta) d\theta \\ &\quad - \int_{-\frac{\pi}{2}}^0 (\sin\theta + 3\sqrt{\sin^2\theta + 3}) \cdot (-4\sin\theta) d\theta \end{aligned}$$



被積分関数に注意して、積分区間をまとめると、

$$\begin{aligned} S &= - \int_{-\frac{\pi}{2}}^{\frac{\pi}{2}} (\sin \theta + 3\sqrt{\sin^2 \theta + 3}) \cdot (-4 \sin \theta) d\theta \\ &= 4 \int_{-\frac{\pi}{2}}^{\frac{\pi}{2}} (\sin^2 \theta + 3 \sin \theta \sqrt{\sin^2 \theta + 3}) d\theta \end{aligned}$$

ここで、 $f(\theta) = \sin^2 \theta$ 、 $g(\theta) = \sin \theta \sqrt{\sin^2 \theta + 3}$  とおくと、 $f(-\theta) = f(\theta)$  から  $f(\theta)$  は偶関数、 $g(-\theta) = -g(\theta)$  から  $g(\theta)$  は奇関数なので、

$$S = 8 \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^2 \theta d\theta = 4 \int_0^{\frac{\pi}{2}} (1 - \cos 2\theta) d\theta = 4 \left[ \theta - \frac{1}{2} \sin 2\theta \right]_0^{\frac{\pi}{2}} = 4 \cdot \frac{\pi}{2} = 2\pi$$

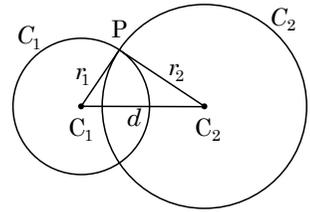
### [解説]

パラメータ曲線と面積の問題です。立式については難しくありませんが、計算はやや面倒なので、時間を費やすことになるでしょう。

4

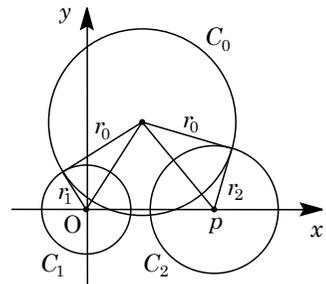
問題のページへ

- (1) 中心  $C_1$  で半径  $r_1$  の円  $C_1$  と、中心  $C_2$  で半径  $r_2$  の円  $C_2$  が直交し、 $C_1$  と  $C_2$  の交点の 1 つを  $P$  とおく。



すると、直線  $C_2P$  が円  $C_1$  の接線、直線  $C_1P$  が円  $C_2$  の接線になることより、 $\angle C_1PC_2 = 90^\circ$  であり、これより  $d^2 = r_1^2 + r_2^2$  である。

- (2) 互いに外部にある 2 つの円  $C_1 : x^2 + y^2 = r_1^2$  と  $C_2 : (x-p)^2 + y^2 = r_2^2$  のいずれにも直交する円  $C_0$  の中心を  $(x_0, y_0)$ 、半径を  $r_0$  とおくと、(1)から、



$$x_0^2 + y_0^2 = r_1^2 + r_0^2 \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

$$(x_0 - p)^2 + y_0^2 = r_2^2 + r_0^2 \dots\dots\dots \textcircled{2}$$

①-②より  $2px_0 - p^2 = r_1^2 - r_2^2$  となり、 $p > 0$  から、

$$x_0 = \frac{1}{2p}(r_1^2 - r_2^2 + p^2) \dots\dots\dots \textcircled{3}$$

①に代入すると、 $\frac{1}{4p^2}(r_1^2 - r_2^2 + p^2)^2 + y_0^2 = r_1^2 + r_0^2$  となり、

$$\begin{aligned} r_0^2 &= y_0^2 + \frac{1}{4p^2}(r_1^2 - r_2^2 + p^2)^2 - r_1^2 = y_0^2 + \frac{1}{4p^2}\{(r_1^2 - r_2^2 + p^2)^2 - 4p^2r_1^2\} \\ &= y_0^2 + \frac{1}{4p^2}\{p^4 - 2(r_1^2 + r_2^2)p^2 + (r_1^2 - r_2^2)^2\} \\ &= y_0^2 + \frac{1}{4p^2}\{p^2 - (r_1 + r_2)^2\}\{p^2 - (r_1 - r_2)^2\} \\ &= y_0^2 + \frac{1}{4p^2}(p + r_1 + r_2)(p - r_1 - r_2)(p + r_1 - r_2)(p - r_1 + r_2) \end{aligned}$$

ここで、 $p > r_1 + r_2$  より、任意の  $y_0$  に対して  $r_0 > 0$  が決まるので、 $C_0$  の中心の軌跡は、③から直線  $x = \frac{1}{2p}(r_1^2 - r_2^2 + p^2)$  である。

- (3) 互いに外部にある 3 つの円  $C_1, C_2, C_3$  を、以下のように設定する。

$$C_1 : x^2 + y^2 = r_1^2, \quad C_2 : (x-p)^2 + y^2 = r_2^2, \quad C_3 : (x-a)^2 + (y-b)^2 = r_3^2$$

ただし、この 3 つの円の中心が一直線上にないことより、 $b \neq 0$  である。

まず、 $C_1$  と  $C_2$  のいずれにも直交する円  $D_1$  の中心  $(x_1, y_1)$ 、半径  $R_1$  とおくと、

$$x_1^2 + y_1^2 = r_1^2 + R_1^2 \dots\dots\dots \textcircled{4}, \quad (x_1 - p)^2 + y_1^2 = r_2^2 + R_1^2 \dots\dots\dots \textcircled{5}$$

④⑤より  $2px_1 - p^2 = r_1^2 - r_2^2$  となり、点  $(x_1, y_1)$  の軌跡は、

$$\text{直線} : 2px - p^2 = r_1^2 - r_2^2 \dots\dots\dots \textcircled{6}$$

また、 $C_1$  と  $C_3$  のいずれにも直交する円  $D_2$  の中心  $(x_2, y_2)$ 、半径  $R_2$  とおくと、

$$x_2^2 + y_2^2 = r_1^2 + R_2^2 \dots\dots\dots \textcircled{7}, \quad (x_2 - a)^2 + (y_2 - b)^2 = r_3^2 + R_2^2 \dots\dots\dots \textcircled{8}$$

⑦⑧より  $2ax_2 + 2by_2 - a^2 - b^2 = r_1^2 - r_3^2$  となり, 点  $(x_2, y_2)$  の軌跡は,

$$\text{直線: } 2ax + 2by - a^2 - b^2 = r_1^2 - r_3^2 \cdots \cdots \text{⑨}$$

さらに,  $C_2$  と  $C_3$  のいずれにも直交する円  $D_3$  の中心  $(x_3, y_3)$ , 半径  $R_3$  とおくと,

$$(x_3 - p)^2 + y_3^2 = r_2^2 + R_3^2 \cdots \cdots \text{⑩}, (x_3 - a)^2 + (y_3 - b)^2 = r_3^2 + R_3^2 \cdots \cdots \text{⑪}$$

⑩⑪より  $2(a-p)x_3 + 2by_3 + p^2 - a^2 - b^2 = r_2^2 - r_3^2$  となり, 点  $(x_3, y_3)$  の軌跡は,

$$\text{直線: } 2(a-p)x + 2by + p^2 - a^2 - b^2 = r_2^2 - r_3^2 \cdots \cdots \text{⑫}$$

さて,  $b \neq 0$  より, 直線⑥と直線⑨は交点をもち, この座標を  $(X, Y)$  とおくと,

$$2pX - p^2 = r_1^2 - r_2^2 \cdots \cdots \text{⑬}, 2aX + 2bY - a^2 - b^2 = r_1^2 - r_3^2 \cdots \cdots \text{⑭}$$

⑭-⑬より,  $2(a-p)X + 2bY + p^2 - a^2 - b^2 = r_2^2 - r_3^2$  となり, 点  $(X, Y)$  が直線⑫上にあることがわかる。すなわち, 直線⑥, 直線⑨, 直線⑫は 1 点で交わる。

そして, この交点  $(X, Y)$  に対して, ④⑤⑦⑧⑩⑪から,

$$X^2 + Y^2 = r_1^2 + R_1^2, (X - p)^2 + Y^2 = r_2^2 + R_1^2$$

$$X^2 + Y^2 = r_1^2 + R_2^2, (X - a)^2 + (Y - b)^2 = r_3^2 + R_2^2$$

$$(X - p)^2 + Y^2 = r_2^2 + R_3^2, (X - a)^2 + (Y - b)^2 = r_3^2 + R_3^2$$

したがって,  $R_1 = R_2 = R_3$  となり, 3 つの円  $C_1, C_2, C_3$  のいずれにも直交する円はただ 1 つ存在する。

## [解説]

2 円の関係を題材にした難しめの問題です。(2)の軌跡については,  $y_0$  の任意性にも触れておきました。なお, (3)の論証は省略気味の記述です。くどいと感じるかもしれませんが……。